



新庁舎建設だより(第3号)

令和元年 7月

新庁舎の建設には町民の皆様や町議会のご理解を得ながら進めることが大切であることから、「新庁舎建設だより」を発行し、進捗状況等をお知らせしております。

今回は、新庁舎建設の「設計コンセプト」についてお知らせいたします。このコンセプトに基づき、敷地内及び建物内のレイアウト検討を現在進めております。

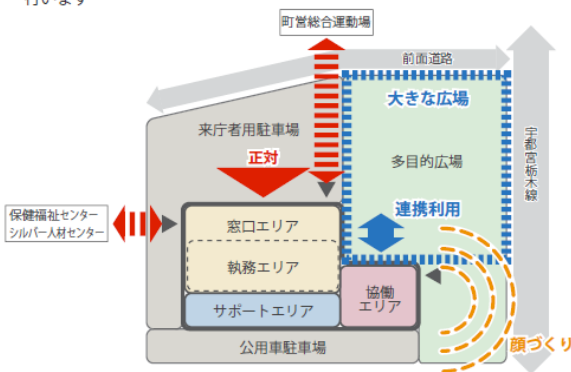
■設計コンセプト

壬生町の中心に、町民と行政が共創し、ひとつになる「町のリビング」をつくります

1. 誰もが利用しやすく、居心地の良い「憩いの庁舎」
2. 町をつなぎ、町民をつなぐ「結びの庁舎」
3. 壬生の特色ある地域の魅力を伝え「発信する庁舎」

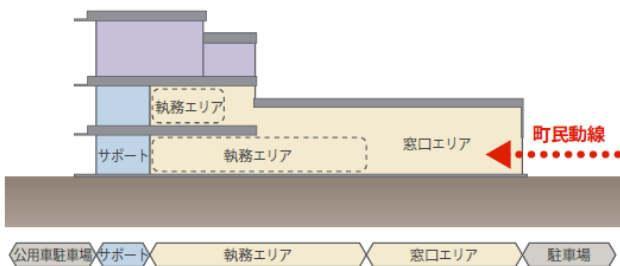
1. 周辺環境との連携をうながす施設配置

- ・前面道路に面して駐車場を設け、庁舎を正対させて主出入口を設けた明快な施設配置とします
- ・多目的広場を大きく確保した配置計画とします
- ・協働エリアと多目的広場との連携、宇都宮栃木線への顔づくりによる魅力発信を行います



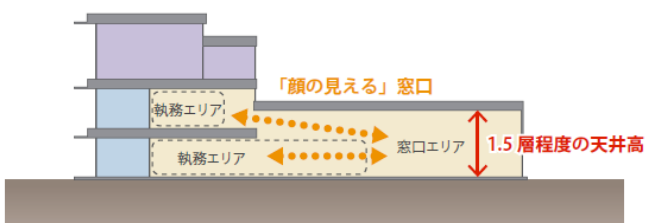
2. 段階的に配置した明快なゾーニング

- ・来庁者用駐車場や多目的広場側に町の顔となる窓口エリアを配置し、執務エリア、サポートと段階的に配置した明快なゾーニングとします



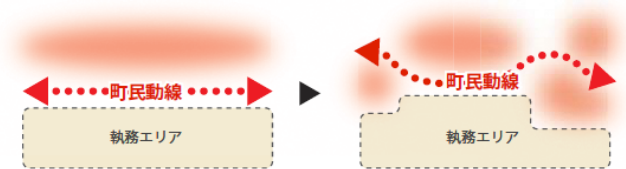
3. 開放的で見通しの良い窓口エリア

- ・1.5層程度の天井高による開放的で見通しの良い窓口エリアとします
- ・1、2階が一体空間となった「顔の見える」窓口による案内性の高い計画とします



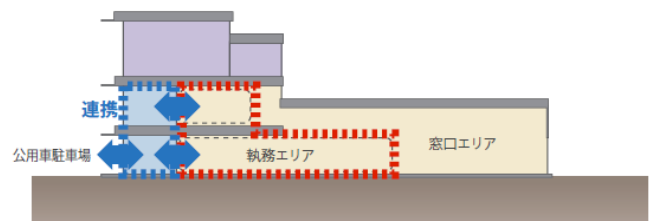
4. 町民のたまり場を生む「町のリビング」

- ・窓口エリアに人々が憩える小さなたまり場を設けることで、日常的な交流の場となる「町のリビング」を計画します



5. 職員連携を高める執務室南側集約配置

- ・サポート、執務室の南側集約配置による職員連携の強化・合理化を図ります



6. 空間特性に合わせた構造計画

- ・町の顔となる空間と、それをサポートする機能的な空間を明確に分け、それぞれの特性に合わせた構造計画とします
- ・町の顔となる空間は1層とすることで、ゆとりのある天井高と、ロングスパンによる無柱空間を実現します
- ・サポート空間は合理的な柱スパンと天井高とします

